

書 写

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	書写 701	A B 146	令和2年
15	三省堂	三省堂◆	書写 702	B 5 130	
17	教育出版	教 出◆	書写 703	A B 146	
38	光村図書	光 村	書写 704	B 5 158	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

校 種		視覚障害特別支援学校	聴覚障害特別支援学校	肢体不自由・病弱特別支援学校
生徒の実態		・両眼の視力がおおむね0.3未満又は視力以外の視機能障害が高度で、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度である。	・両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上で、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度である。	・肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度である。 ・慢性の疾患等の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度である。
観点	1 障害のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について	①触覚や聴覚等を活用して、体験的な活動が工夫できるもの。	①身の回りの文字に関心をもてるように学習活動が工夫できるもの。	①上肢の操作を伴うものであっても、補助的な手段等を活用した学習活動が工夫できるもの。
	2 障害への配慮を要する内容等について	①視覚を頼りに文字を見比べたり、探したりする活動があり、学習活動に困難が想定されるもの。	・特になし。	①上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの。
構成上の工夫	障害の状態に応じた事項、その他	①手本が大きく鮮明であるもの。	①手本やポイントを視覚的に分かりやすく示しているもの。	①まひによる注視の困難を補えるように、手本が大きいもの。

中学部 書写(視覚障害特別支援学校)

	発行者	東書	三省堂
内容	「字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと」を取り上げている項目数	8	7
	「漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと」を取り上げている項目数	8	8
	「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと」を取り上げている項目数	4	3
	「目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと」を取り上げている項目数	3	2
	「身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと」を取り上げている項目数	5	2
	発展的な内容を取り上げている箇所数	1	2
	1 視覚障害のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①触覚や聴覚等を活用して、体験的な活動が工夫できるもの。	1箇所 ①「基本の点画の書き方」では、毛筆の筆使いを擬音語で表現している。(P10-11)	6箇所 ①「点画の丸み」では、毛筆の手本を指でなぞって確かめる活動を示している。(P38-39)
2 視覚障害への配慮を要する内容等について ①視覚を頼りに文字を見比べたり、探したりする活動があり、学習活動に困難が想定されるもの。	8箇所 ①「手書き文字と活字」では、手書き文字と活字の違いについて考える活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P72)	8箇所 ①「活字と手書き文字・筆順」では、活字と手書き文字を見比べる活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P24)	
構成上の工夫	国語との関連箇所	11箇所	7箇所
	障害の状態に応じた事項、その他 ①手本が大きく鮮明であるもの。	①「書き初めしよう」では、折り込み4ページ分の大きさを毛筆の手本を示している。(P97-100)	①「書き初め」では、折り込み4ページ分の大きさを毛筆の手本を示している。(P113-124)
参考	防災や自然災害の扱い	あり	あり

中学部 書写(視覚障害特別支援学校)

	発行者	教出	光村
内容	「字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと」を取り上げている項目数	8	7
	「漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと」を取り上げている項目数	11	7
	「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと」を取り上げている項目数	7	5
	「目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと」を取り上げている項目数	2	2
	「身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと」を取り上げている項目数	2	4
	発展的な内容を取り上げている箇所数	5	1
	1 視覚障害のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①触覚や聴覚等を活用して、体験的な活動が工夫できるもの。	1箇所 ①「行書の筆使い『大』」では、手を筆先に見立ててなぞる活動を示している。(P44-45)	1箇所 ①「漢字の筆使い」では、毛筆の筆使いを擬音語で表現している。(P41)
2 視覚障害への配慮を要する内容等について ①視覚を頼りに文字を見比べたり、探したりする活動があり、学習活動に困難が想定されるもの。	6箇所 ①「楷書と行書の違い『和』」では、楷書と行書の文字を見比べて、形が変化しているところに丸を付ける活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P42-43)	4箇所 ①「点画の変化」では、楷書と行書の文字を見比べて、点画が変化しているところを鉛筆で囲む活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P58)	
構成上の工夫	国語との関連箇所	10箇所	14箇所
	障害の状態に応じた事項、その他 ①手本が大きく鮮明であるもの。	①「書き初めを書く」では、折り込み4ページ分の大きさを毛筆の手本を示している。(P129-136)	①「書き初め」では、折り込み4ページ分の大きさを毛筆の手本を示している(P145-156)
参考	防災や自然災害の扱い	なし	なし

中学部 書写(聴覚障害特別支援学校)

発行者		東書	三省堂
内容	「字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと」を取り上げている項目数	8	7
	「漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと」を取り上げている項目数	8	8
	「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと」を取り上げている項目数	4	3
	「目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと」を取り上げている項目数	3	2
	「身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと」を取り上げている項目数	5	2
	発展的な内容を取り上げている箇所数	1	2
	1 聴覚障害のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①身の回りの文字に関心をもてるように学習活動が工夫できるもの。	9箇所 ①「本のポップを書こう」では、好きな本を紹介するポップを作る活動を示している。(P64-65)	7箇所 ①「身のまわりの文字」では、手書き文字や活字による伝え方の変遷を示している。(P72-73)
2 聴覚障害への配慮を要する内容等について	なし	なし	
構成上の工夫	国語との関連箇所	11箇所	7箇所
	障害の状態に応じた事項、その他 ①手本やポイントを視覚的に分かりやすく示しているもの。	①「姿勢と筆記具の持ち方」では、文字を整えて書くための姿勢や書きやすい鉛筆の持ち方などを、写真や図で示している。(P6-7)	①「点画の種類と筆使い」では、筆の穂先の手本や筆使いのポイントを視覚的に示している。(P16-17)
参考	防災や自然災害の扱い	あり	あり

中学部 書写(聴覚障害特別支援学校)

	発行者	教出	光村
内容	「字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと」を取り上げている項目数	8	7
	「漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと」を取り上げている項目数	11	7
	「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと」を取り上げている項目数	7	5
	「目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと」を取り上げている項目数	2	2
	「身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと」を取り上げている項目数	2	4
	発展的な内容を取り上げている箇所数	5	1
	1 聴覚障害のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について ①身の回りの文字に関心をもてるように学習活動が工夫できるもの。	11箇所 ①「あの人が残した文字」では、日本の歴史上の人物が書いた文字を写真で紹介している。(P56-57)	7箇所 ①「行書を活用しよう」では、行書を活用している様々な場面を、写真で紹介している。(P80-81)
2 聴覚障害への配慮を要する内容等について	なし	なし	
構成上の工夫	国語との関連箇所	10箇所	14箇所
	障害の状態に応じた事項、その他 ①手本やポイントを視覚的に分かりやすく示しているもの。	①「書式の教室」では、手紙の書き方について、手本やポイントを視覚的に示している。(P100-101)	①「楷書に調和する仮名」では、平仮名の筆使いのポイントを枠囲みで示している。(P44)
参考	防災や自然災害の扱い	なし	なし

中学部 書写(肢体不自由・病弱特別支援学校)

	発行者	東書	三省堂
内容	「字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと」を取り上げている項目数	8	7
	「漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと」を取り上げている項目数	8	8
	「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと」を取り上げている項目数	4	3
	「目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと」を取り上げている項目数	3	2
	「身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと」を取り上げている項目数	5	2
	発展的な内容を取り上げている箇所数	1	2
	1 肢体不自由・病弱の生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について	3箇所	3箇所
①「思いを文字で表そう」では、自分の思いを効果的に文字で表現する活動を示している。(P91-92)		①「グループ新聞を作ろう」では、グループで内容やレイアウトを話し合っ決めて決める活動を示している。(P48)	
①上肢の操作を伴うものであっても、補助的な手段等を活用した学習活動が工夫できるもの。			
2 肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について	6箇所	10箇所	
①上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの。	①「書いて味わおう『竹取物語』」では、1ページ分の物語文をなぞる活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P48)	①「名言集をつくろう」では、彫刻刀やカッターを用いて消しゴムを彫り、篆刻を作る活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P76)	
構成上の工夫	国語との関連箇所	11箇所	7箇所
	障害の状態に応じた事項、その他 ①まひによる注視の困難を補えるように、手本が大きいもの。	①「点画の書き方と字形の整え方」では、ページ全体に毛筆の手本を示している。(P15)	①「行書の特徴」では、ページ全体に示した文字について、行書の特徴となる部分を矢印や丸囲みで示している。(P36-37)
参考	防災や自然災害の扱い	あり	あり

中学部 書写(肢体不自由・病弱特別支援学校)

	発行者	教出	光村
内容	「字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと」を取り上げている項目数	8	7
	「漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと」を取り上げている項目数	11	7
	「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと」を取り上げている項目数	7	5
	「目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと」を取り上げている項目数	2	2
	「身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと」を取り上げている項目数	2	4
	発展的な内容を取り上げている箇所数	5	1
内容	1 肢体不自由・病弱の生徒が興味・関心をもって取り組むことができる単元等について	7箇所	6箇所
	①上肢の操作を伴うものであっても、補助的な手段等を活用した学習活動が工夫できるもの。	①「学校生活に生かして書く」ではお薦めの本の帯やポップを作る活動を示している。(P36)	①「私の好きな言葉」では、出会った言葉や書きたい言葉を選び、書体や筆記具、用紙を決めて書く活動を示している。(P104)
内容	2 肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について	8箇所	14箇所
	①上肢の操作を伴うため、学習活動に困難が想定されるもの。	①「楷書と行書の違い『和』」では、楷書と行書を見比べて、形が変化しているところに丸を付ける活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P42-43)	①「速さを比べてみよう」では、速さを意識して書く活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P52)
構成上の工夫	国語との関連箇所	10箇所	14箇所
	障害の状態に応じた事項、その他 ①まひによる注視の困難を補えるように、手本が大きいもの。	①「筆使いと字形『天地』」では、見開きページに毛筆の見本を示すとともに、中心線や補助線を示している(P16-17)	①「点画の変化」では、見開きページに毛筆の見本を示している。(P60-61)
参考	防災や自然災害の扱い	なし	なし

